2025年度CS-Tokyo能登半島地震ボランティアプログラム報告（第31回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2025年8月14日（木）～8月16日（土）
■ボランティア参加者数：10名
■実施場所：石川県輪島市町野地区（金蔵）の地域イベント『祖霊のともしび』の手伝い
※『祖霊のともしび』・・・地震からの復興を願って4000本のキャンドルに灯りをともすイベント。キャンドルに巻かれたメッセージは「夏の体験ボランティア2025 in TOKYO」の企画と連動して東京のボランティアと、愛媛県宇和島市のボランティアが作成した。

■被災者の声（主なもの）
・また『祖霊のともしび』が出来て嬉しい。来年もやってもらいたい。楽しみが出来る。
・どの地区も若い人がいないので東京から来てくれてありがたい。
・震災前は漁師をやっていたが、海も山もダメになって全部ダメになった。やることがないから庭できゅうりを育てている。
・当目米は『当たり目』と書いて、縁起がいい。金蔵米も『金の蔵』だからどちらも縁起のいい米。
・地元の米作りをブランド化したい。今NPO法人を作って稲作に興味がある人たちを募っている。宣伝してくれるとありがたい。
・以前はお店の前でお土産も売っていたが、お土産屋さんが再開したから辞めた。
・人口減は止められない。地区の存続をどう考えて、行動していくか。新たな居住者の見込みが低いのであれば、山間部の特性を活かし果樹園を作るとか、お寺や空き家を活用した学生、社会人の研修合宿など別のかたちで地区に人を呼ぶことを考えている。

■ボランティアの所感（主なもの）
・灯ろうのメッセージ製作では様々な年代の方が、能登の災害を知り、現地の方に想いを寄せて考える時間を持つことができ、能登と自分の地元がつながって嬉しかった。
・県外からのボランティアを積極的に募集して地元の活性化や産業につなげようとしている姿も見られ、頼もしく感じる一方で、もともとの課題である過疎の問題もありまちづくりの難しさを感じた。今までの縁を元に外部からの情報発信やいろいろな人を巻き込んで繋がりを増やしていくことが大切。
・以前より更地が増えて復旧が進んでいるように見えたが、通行止めや片側通行の箇所があったり、家屋が倒壊したままのところ、地域によっては下水道が復旧してないなど、場所によってかなり復旧に時間差があることに気づいた。まだまだ大変な思いをされている方はたくさんいるが、メディアでほとんど報道されなくなってしまって残念。今後もボランティアを継続して地域のみなさんと触れ合いたい。
・あの綺麗な星空は本当に感激したので、町おこしの一つとして活かせそうな気がする。
・先週の大雨の影響なのか土砂崩れの跡から水が流れ出していた。昨年9月の記録的な大雨被害の後、大雨のたびにどこかでまた土砂崩れが発生するかもしれない状況は不安だろうと思う。